

# 「勉強が楽しくできる人」は強い！ “知的好奇心”を大切に 目標に向かってがんばろう



【出席者】(後列向かって左から)

清田 正紘さん  
理科II類・筑波大学附属駒場高校卒業

石渡 晟さん  
理科I類・麻布高校卒業

上野 佐隆さん  
理科I類・駒場東邦高校卒業

岩崎 優さん  
理科I類・開成高校卒業

(前列中央)

中岡 菜々子さん  
理科II類・桜蔭高校卒業

【司会】用賀校校舎責任者 萩原 信幸先生(左) グノーブル代表 中山 伸幸先生(右)

サピックス小学部を卒業してから6年。今年も多くの先輩たちが「希望の大学に合格しました」という喜びに満ちた知らせを届けてくれました。そんなOB・OGたちのなかから、大学進学塾・グノーブルで学び、東京大学の理科I・II類に合格した5人に集まってもらいました。東大での学生生活のようす、サピックスで学んだことがその後どう生きているか、英語はどう学習したらよいのかなど、中学受験はもちろん、それ以降にも役立つお話をたくさん聞くことができました。

## 多彩なカリキュラムと 個性的な教授陣が東大の魅力

**萩原** 皆さん、このたびは東京大学へのご入学、おめでとうございます。実際に入学してみても東大の印象はどうか。

**上野** 入学するまでは、勉強しきれない人ばかりかと思っていましたが、けっこうだけた雰囲気です。また、カリキュラムを自由に組むことができるので、自分のしたい勉強を幅広くできるのがいいですね。ほくは理系ですが、語学を重視したカリキュラムを組むこともできます。

**石渡** いろいろな考え方を持つ人が集まっているのは、やはり大学ならではの良さだと思います。サークルはいろいろあつて、理系の人がだけでなく、文系の人の考え方に触れることもできます。ほくは本郷キャンパスで行われる学園祭・五月祭の責任者をしているので、クラスで企画を出そうと提案したところ、みんな協力的です。勉強については理系でもいろいろな文系科目が学べるので、一般教養をきちんと身に付けて社会に出て行くことができます。これは大きな魅力ですね。

**清田** 入学して最初に感じたのは、とにかく人が多いということです(笑)。最初の授業のとき、ぎりぎりの時間に行ったら、立ち見になってしまいました。高校では考えられませぬよね。いろいろな人が集まっていることとはほくも同感です。関西圏から来ている人も多く、気が付くと関西弁がうつつたりし



中山 伸幸先生  
グノーブル代表

て(笑)。ほくが通っていた筑駒は生徒数も少なく、比較的似たような考え方の人が多かったもので、ずいぶん違いを感じます。

**中岡** 東大には全国からいろいろな人が集まっています。やはり生活してきた地域が異なるという話も違うので、新たな発見が多くておもしろいですね。たとえば、沖繩から来た人は「東京は寒い」といつも言っています(笑)。また、本人は方言と知らずに話しかけてくれるのですが、こちらには全然意味がわからないこともあります。授業は高校と違い、自分の好きなものを選ぶのでおもしろいですね。

**中山** 大学らしい授業といえますか、良い刺激を受けられると思うものはありますか。

**清田** 東大の先生方は、学生に理解させようという気があまりないというか、勝手にしゃべっている感じがしますね(笑)。

**石渡** ほくは理系なのに「歴史世界論」という授業を取っています。これは戦国史を構造的にとらえようというものです。高校の授業では歴史の流れに沿って、どんな出来事があったかを教えますよね。これに対して「歴史世界論」では、戦国大名がどう変貌していっ

たかとか、どんな思惑で権威を利用しようとしたのかといった深いところを教えてください。この分野に興味がある人には刺激的な授業だと思います。

**岩崎** いったん社会に出てから講義を受け持つ先生方もたくさんいらっしゃいます。そういう先生の話はおもしろいですね。たとえば、機械工学科で教えているある先生は、車のラリーの大会に出ており、講義でも実践的で楽しい話をしてくれます。また、先日は三菱航空機といって、三菱重工が新しい国産旅客機をつくるために設立した会社の社長が講義をしてくれました。ボーイング機の翼なども設計したことのあるすごい人で、日本で国産飛行機をつくるためにがんばりましょうと言って、学生たちもみんな盛り上がりました。

**上野** ほくは朝日新聞の記者による近現代史の授業に出ています。中東のようすなど、実際に現場に行った話をしてくれることもあり、そんなときは勉強というよりも、ちょっとしたドキメンタリーを見ているような感覚になりますね。

**中山** 皆さん、おもしろそうな勉強をしてい



中岡 菜々子さん  
理科II類・桜蔭高校卒業

「大学受験でも勉強が楽しく思えたのは、  
サピックスで学んだおかげです」



ますね。ところで、大学受験の勉強を効率的に進めるには、早い時期から自分のやりたいことを決めておいたほうがよいとよくいわれますが、どう思いますか。

**上野** ぼくは将来やりたいことを絞っていませんでした。東大に入ったのも、総合大学で、1、2年次に教養課程があって、いろいろなことを学べるのが魅力だったからです。自分の専門だけしかわからないというのではなく、幅広く知識を身に付けたいと思って東大をめ

ざしました。早い時期から明確な目標を持っている人は尊敬しますが、大学に行けば社会に触れる機会も多いので、それから決めてもよいと思います。その意味でも東大の教養課程には魅力があります。

## 楽しく勉強する習慣が 大学受験でもものをいう

**中山** サピックス小学部で勉強していたときと、大学受験に向けて勉強していたときとは、どこがどのように違いますか。

**上野** いちばんの違いは塾への依存度だと思います。小学生のころはサピックスのカリキュラムがほぼすべてで、自分の弱点もサピックスの先生が見つけて対策を考えてくれました。ところが、大学受験になると、やはりほとんどの人が塾に通っていますが、自分で「ここが苦手だからあの問題集をやるう」などと考えることはなりません。大学受験では主体的に勉強しないといけないと思います。

**中岡** 中学受験ではサピックスの先生に言われたことをこなすだけでした。いま振り返ると、精神的に不安定になることもなく、言われたことを着々とこなしてあっさり終わった感じがします。大学受験では、科目によってはクノーブル以外にも通ったので、勉強全体の進度などは自分で調節していました。さらに、精神的な強さも必要で、中学受験とは全然違う印象でしたね。

**岩崎** 中学受験は楽しかった気がします。一方、大学受験のときは、勉強することで自分

の能力が高まるのだから大学に進むのは当然で、それも世間で良いとされる大学が良いと思っていましたから、しなくてはいけないこととして普通に勉強していました。もちろん、途中で嫌になることもありましたが、自分の生き方を考える必要だと納得していたので、前向きに大学受験の勉強ができたと思います。

**上野** 小学生のころは勉強が日課というか、勉強しかやるのがなかった気もします。算数はパズル感覚で解いていましたし、勉強は苦になりませんでした。でも、大学受験のときは遊びたい気持ちを抑えつつ、主体的に勉強しなければならぬのがつらかったです。

**清田** 中学受験のときは出された教材を何の疑問も持たずに解いていました。しかし、大学受験のときはなぜこんなことをしなくてはいけないのかと思うことがあって、それもつらさの原因の一つだったのかなと思います。

**萩原** やりたくないけど、やらなくてはいけない。そういうつらさを、どう自分の気持ちのなかで消化しましたか。

**石渡** ぼくは日本史が好きだったので、理系でもそういう勉強ができる東大に絶対に入り



石渡 晟さん  
理科I類・麻布高校卒業

「中学受験の勉強で考える習慣が身に付きました。  
考えることは苦になりません」

# 「文法をしっかりと学んだうえで 文章をたくさん読むと、英語力は必ず伸びます」



上野 佐隆さん  
理科Ⅰ類・駒場東邦高校卒業

たいと思っていました。もともと勉強は好きではないので苦労しましたが、絶対に入るぞという強い気持ちを持ち続けてがんばりました。  
清田 ぼくも受験勉強は嫌でしたけど、自分の好きな勉強をするためにも、いまは我慢してやろうと言い聞かせました。

中山 皆さんは中学受験を経験したため、いざというときには真剣に勉強する姿勢が身に付いていたのだと思います。さらに、サピックスの勉強を通して、どんな科目でも思考力が働かせられる頭になっていたことも大きいと思いますね。  
石渡 確かに、算数ではそのころから試行錯誤をしたり、悩んだりする習慣が身に付いていました。高校ではよく、答えを出さなくても、一問一問きちんと考えて悩むことが大事だといわれますよね。それは小学校のころから演習などで経験していたので、苦にはなりませんでした。

中山 小学生のうちからたくさん勉強させるのはどうかと言われることもありますが、それについては自分を振り返ってどう思いますか。  
清田 自分はむしろ楽しくやっていたし、恵まれていたとも思います。たとえば、暗記した

ことなどはちよつとやればすぐ思い出せます。小学生のときがいちばん暗記に適している時期だと思えますし、その時期にいろいろやっておいたことは無駄ではなかったといえます。

中岡 サピックスでは、勉強を楽しくするという習慣が付いたと思います。大学受験では勉強がつかいときもありましたが、楽しいと思えることも多々あったのは、小さいころからサピックスで勉強していた影響ではないでしょうか。

石渡 サピックスへは習い事感覚で通うことができました。たとえば、国語ではさまざまな文章をたくさん読みますよね。読むことは好きだったので、サピックスで国語の授業のときにたくさんさんの物語文を読めたのは楽しかったです。

萩原 それは大切なことですね。授業を楽しく受ける生徒と、嫌々受ける生徒とでは、同じ授業を受けても身に付くものが全然違うはずですよ。勉強の時間を一生懸命楽しむことこそ、勉強ができるようになるいちばんの秘訣だと思います。

## 中高では何が必要かを見極め 主体的な塾選びを

萩原 中学に入つてすぐに塾に通う人と、そうでない人がいると思います。皆さんはいづれから塾に通いはじめましたか。

上野 ぼくは高1からです。周りには中1から通う人もけっこういました。小学校のときに行っていたから中学でも、という感覚で行くのは良くないと思います。中学になって

も親に行かされているという感覚では続かないと思います。たとえば、自分の学校は英語の授業の内容が物足りないなどと思ったとき、自分で決めて塾に行くという形ならよいと思います。

岩崎 「考える」環境に身を置くことの重要性はあると思います。ただ授業を受けるというのではなく、一生懸命にいろいろなことを考える場としての塾であれば、とてもプラスになるはずですよ。

石渡 ぼくは高校からグノーブルに入り、学校の授業とは違う英語の授業を受けたことが、本格的に英語の勉強をするきっかけになりました。麻布のような自由な学校の場合は、塾に行くことはきっかけを掴むためによいと思います。

清田 全然塾に行かず、自分で問題集を解いて大学に受かった人もいます。ただ、ぼくの学校は先生が教科書の内容より自分の興味ある分野の話をするが多く、これでは困ると思つて高校から塾に行きました。

中岡 わたしは中1の最初に、周りの友だちがみんな塾に入ると聞いたので、入らないといけないのかなと思つて通いはじめました。でも、



萩原 信幸先生  
用賀校校舎責任者

# 「いろいろなことを考える場としての塾は、 すごくプラスになります」



岩崎 優さん  
理科1類・開成高校卒業

そこは押し付ける感じの塾で、それで勉強が嫌になってしまった部分があったので、勉強の楽しさを教えてくれる塾がよいと思います。

石渡 ほくは最初、親に言われて大手の予備校に入りました。でも、英語に関してはおもとと苦手だったので、サピックスのように親身に教えてくれるところがよいと思って、その後グノーブルに移りました。

中山 上野くんは塾をいくつか回ったと聞きました。塾選びは何を基準にしていたのですか。  
上野 グノーブルに決めたのは、雰囲気と面倒見の良さと、授業の進め方、それからやはりレベルですね。むずかしすぎるのも、簡単すぎるのもダメだと思います。グノーブルの生徒はみんな意欲的なので、自分の力が伸ばせるなと思いました。

岩崎 ほくも塾はいくつも回りました。大学受験を視野に入れて塾に行くわけですから、まずは最後までついていっても大丈夫だと確信できる、信頼に値する先生を探そうと思えました。その点、中山先生は英語の能力が高く、全力で生徒に当たってくるところが大きな魅力でした。

中岡 わたしは英語が伸び悩んでいましたが、それまで行っていた塾は英単語や構文を解説していくだけで、文章全体がよくわかりませんでした。そのため、通う意味があるかどうか悩んでいたんです。そんなとき、友人の勧めでグノーブルに行ったら、それまでの塾と違って、毎回毎回、解説を受けながら文章に対する理解が深まるのが楽しかったですし、それが東大受験には大きな力になりました。

## 知的に英語を使いこなすには 早めの文法習得と多読が有効

萩原 これから中学に入る人たちは、そのほとんどが初めて英語を勉強します。何かアドバイスはありますか。

上野 中学・高校ではまず正確に読めるようになるためにも、文法をきっちりやったほうがよいと思います。文法の基礎を完璧にしたうえで、文章として読むことを意識して勉強すると成績が伸びるはずですよ。

岩崎 グノーブルで指導を受けた音読が重要だと思えます。大学に入ってから音読の重要性は身にしみて感じています。英語は正確に速く読めることのほかに、堂々と読めることも大切です。東大の理系に入ると、自分で論文を書いて英語で発表するという授業があります。それを聞いて驚いたのは、ほそほそしゃべる人が多いこと。東大の学生たちは英語は読めるし、発音もそれなりにできると思いますが、堂々と話せる人が少ないですね。音読をやっておくと、わかりやすく堂々と話すこ

とができるようになるし、最終的には学会でのプレゼンテーションにもつながることですから、音読はとても重要ですね。

石渡 英単語の習得は大切ですが、単語帳の単語は文章から切り離されたもの。早くから普通の英語の文章に触れて、文脈のなかで単語を自分のものにしておいたほうがよかったです。

中山 英語をコミュニケーションツールとして知的に使うには、最低限の文法力が絶対に必要です。それを身に付けたうえで、音読をしながら多読をしていくことが大事です。そのためには早い時期に文法を勉強して、英文をたくさん読める土台をつくるとういでしょう。

清田 ほくも文法をまずきちんと理解し、そのあととはたくさん読むのがよいと思います。でも、そのときに正確に読めないという意味があるので、文法が一通り終わったら、文章をどんどん読んで、一つひとつきちんと理解していけば、英語力は必ず伸びます。

中岡 音読と、最初に中学で身に付けた文法が重要です。また、最初のステップで英語が苦手になるとつらいので、洋楽なり洋画なりに触れて、とにかく英語を好きになるようにするとよいのではないのでしょうか。

## 中学受験が最終目標ではない。 志高く、果敢にチャレンジを

萩原 東大に入りたいまま、サピックスやグノーブルで学んでおいて良かったと思うことはありますか。

**上野** 理解できる楽しさはサピックスで身に付いたと思います。それから勉強する習慣も身に付きました。一方、グノーブルでは、他の塾とは違った良いことがたくさんありましたが、とくに語学に対する姿勢が身に付きました。単に問題を解くのではなく、あくまでもコミュニケーションツールとして文章を理解するための英語の勉強ができましたね。これは今後、大学で第二、第三の外国語を勉強するときにも役立つものと期待しています。

**石渡** ほくは、日本史は好きでしたが、地理はあまり勉強していませんでした。でも、サピックスで地理の授業を受けたときは興味がわきました。それから、国語の授業で文章をたくさん読んでいるうちに、読むことが大好きになり、大学受験のときも役立ちました。サピックスは知的好奇心をわかせてくれる場

で、一方のグノーブルは信頼できる先生方がいて、大学受験終盤まで精神的な支えになってくれました。

**岩崎** サピックスに東大の先輩がやって来たとき、東大生でも鎌倉の位置がわからない人がけっこういるということを知り、笑いの話のようにしていただきました。そのとき、ほくはサピックスで一般的な教養を学べて良かったなと思いました。たと



えば、47都道府県を教えてくれるなんて、中学受験のときぐらいですよ。サピックスで考える習慣が付いたことも大きいと思います。小学生のときに考える習慣を身に付けてしまえば、仮に中学で一度だらけてしまっても、高校でまたすぐ取り戻せます。

**清田** わかると勉強は楽しいと思えたのは、とても良かったです。たとえば、サピックスの理科で、太陽の周りを地球が回り、地軸が傾いているから春夏秋冬の四季の変化が生まれるのだと教えてもらったときは、とてもよくなりました。おもしろく感じました。グノーブルで学んだ英語も、教材の内容が興味深く、そういう英文が普通に読めて理解できて楽しいと感じられるようになったのは良かったです。

**中岡** ふだんは仲良く話している友だちが、テストのときは好敵手になる。サピックスでそういう環境で勉強したことは、中高でもお互いに励まし合いながら受験勉強を乗り越える土台になった気がします。

**清田** 受験がゴールとは思わないでください。自分がおもしろいと思えるものを見つけて、究めていくことはとても楽しいのですから。

**石渡** 小学生のころは、純粹に興味を持ったことにアタックして、勉強していくことができた時期です。勉強だけではなく、スポーツなどもそうです。だから幅広くいろいろなことにチャレンジしてください。

**岩崎** いまから思うと、小学生は何でもできる時期だという気がします。目標をどんどん高くしてがんばってほしいですね。それには環境が大事なので、小学生のうちから家庭の環境に気を配ることも必要です。親がテレビばかり観ていけば子どももテレビばかり観てしまいうし、親が本を読んでいると子どもも本を読むようになります。

**中岡** 中学受験を最終目標にしないで、大きな目標を持って、知的好奇心を満たしながら楽しく勉強を進めてください。

**上野** 中学受験はたいへんだと思いますが、がんばって合格をつかみとってください。

**萩原・中山** 今日は役に立つお話を、どうもありがとうございました。



清田 正紘さん  
理科I類・筑波大学附属駒場高校卒業

「自分がおもしろいと思えるものを見つけて、究めていってください」